レッスン：PYR NO.32

テーマ：現在のパーソナリティーの層(plane)と亜層(sub plane)

PYR 32/KE05 No.10/05/0302

私の姉妹・兄弟たち、

スピリット、光、火の子供たちよ。私たちは常に主、絶対、主の聖性のなかに抱かれています。

　前回のレッスンではLifeの多重性について話し、この多重性に関してより詳しく話しました。またはっきり理解する必要があります…Lifeの多重性について話す時、Lifeの現象と見なされるものを活性化するLifeだけでなく、また自然をも考える必要があります。

　自然はLifeによって活性化されていることを知っていますが、同時にそれは聖霊的に築かれています。何であれ創造され、状態、ヒポスタシスを与えられるそれらの全ての原子、細胞、分子の中に“Lifeがある”ということです。

 　前に述べたように、人体のなかにさえ無数のモナドセルフがあります…いくつかのモナドセルフの多重性の結果であれ、あるいはLifeとしてのモナドセルフの多重性の結果であれ、それは問題ではありません。しかし自然についても同じことが言えます。

　自然というとき、Lifeの様々な王国だけを意味するのではなく、火から出来ている私たちの地球全体についても述べています。そのステートのなかにもLifeがあり、多重性に関してもLifeの多重性の様々なステートがあります。

　前回のレッスンでは、聖霊的現れは低いレベルのLifeを現すことによってこの多重性を表現している、と説明しました。そしてエンジェル達がおり、そのステートよりずっと低いレベルもあります。その低いレベルにおける人間の身体に関しては、そこにはLifeのそれら全ての段階、ステージがあり、それらもまた多重性の結果である、またはLifeのいくつかの結果であるとも言えます。

**私たちの肉体における最小のものが病気として表現されるためには、そこにはそれらのウイルスを司っているオーダーがあるのです。**

**全ての病気は肉体の中にあり、その病気を活性化することを司っているオーダーがそのように働いているのです。そのような仕組みになっています。**

**ですから肉体の中で表現される全ては肉体内にあり、外側から来るのではありません。**

さて、潜在的可能性の最初のサイクルに関しては、このサイクル内にいる人間はサイコノエティカルな成長、気づきの上昇に向けていかなる努力もしない、と述べました。その理由は、そのサイクルにいる人間は本能的意識のセルフエピグノシスを現しているからです。彼等は潜在意識的にも、意識的にも表現するということがありません。彼等は非常に多くの転生をそのようにして最初のサイクル内で過ごします。実際、人間は他のいかなるサイクルにおけるよりも、このサイクルの中で最も多くの転生を繰り返しています。

Page2

この潜在的可能性のサイクルとサイコノエティカル界の様々な層(Plane,プレーン）と亜層に関してですが、このサイクルにはどのくらいの数の層と亜層があるでしょうか？このサイクルはどの層と亜層に一致するのでしょうか？

　最初のサイクルに関しては、気づきの動きはあまりにも遅く、そのレベルもあまりにも低いので、そこには最初の7つの層しかなく、それらを経ていくために多くの転生が必要となるのです。

最初から2番目へと移行するための何の努力も行われません。人間がその最初のサイクルをマスターするレベルに到達すると、2番目のサイクルに入ります。

　それでも最初はそれほど多くの違いはありませんが、そのパーソナリティーが先に進み多くの転生を重ねていくと、努力が始まります。その努力は意識的にスタートすると思いますか？それらの潜在的可能性のサイクルのなかにはどれだけの層と亜層があるでしょうか？

　そのサイクルの中でそのパーソナリティーは今やいわゆる潜在意識的意識のセルフエピグノシスを現しています。意識の動きはずっと速くなり、前の層の他にさらに7つの層が２セットあります。つまりそのパーソナリティーはこのサイクルの終わりには21番目のレベルに到達することになります。

　気づきのより高いレベルを現すことに向けた意識的努力はいつ始まると思いますか？それは2番目のサイクルの真ん中を過ぎたあたりで始まります。（2番目のサイクルの）初めから真ん中までにはより多くの転生があり、真ん中から最後までの転生はそれより少なくなります。真ん中から先になると努力が始まり、勿論それ以降は進むことへの楽しさがあります。

　さて、パーソナリティーがこの2番目のサイクルをマスターし終わるごく近くになると、つまりサイコノエティカル界の21番目の層にある時、そこではたくさんの努力が必要になります。なぜでしょうか？

　以前のレッスンで説明したように、パーソナリティーがそのサイクルをマスターする近くに来ると、そのパーソナリティーは真の感覚をより意識的に使うようになります。五感を意識的に使ってはいませんが、以前と比べるとより意識的に使用するようになります。

　誰もが潜在意識的には真の感覚を使用しています；例えば、考えている時、記憶を使ってファンタジーの中にいる時など。それゆえそのパーソナリティーは前と比べるとより多く真の感覚を使用しますが、

それはそのパーソナリティーが夢を覚えはじめるようになったり、さらには夢のなかで出来事を導くようになるのです。現在のパーソナリティーがそれを現すようになると何が起きるでしょうか？

　何が起きるのかと言うと、現在のパーソナリティーを構成する2つの小さなエゴの中のより小さいエゴが心配し始めて、現在のパーソナリティーに問題を作りだします。

なぜなら小さなエゴは現在のパーソナリティーが3番目のサイクルに入ることによってゲームに負けると考え始めるからです。それは現在のパーソナリティーがLifeそれ自体からより多くを現すことに関して、真に価値があるものとそうでないものに気づき始めるからです。

それゆえ、その特定の現在のパーソナリティーの内側で多くの問題、衝突、痛みが生じるようになります。ですから、サイコノエティカル界の21の層および亜層において、そのパーソナリティーは内側で多くの衝突を体験するようになります。

　このサイクルの終わりになると、そのパーソナリティーは3番目のサイクルに入る準備ができ、勿論3番目のサイクルでは動きはずっと速くなります。なぜなら、そのパーソナリティーはもっともっと多く真の感覚を使用するからです。

　そのサイクルにはどれだけ多くの層と亜層が属しているのでしょうか？7の3倍ですが、しかし動きは前よりもずっと速くなり、パーソナリティーはあたかも通過するかのようにジャンプして行くので、そのパーソナリティーはそれほど多くの転生を必要としません。

　3番目のサイクルにおいてはパーソナリティーは五感をもっと意識的に現すようになり、Lifeそれ自体からもっともっと多くを表現するようになります。

　そのパーソナリティーがこれらのサイクルをマスターする間際に近づくと、パーソナリティーは次のサイクルに移行する準備をします。

　レッスンのなかで述べました：そのサイクルにおいて、マスターするということは五面ピラミッドのなかで起きるだろう、**そしてそれはロゴス自身から現在のパーソナリティーに与えられる最大のミステリー（神秘）を受け取る準備であると。**

それゆえそれ以外の努力は必要ないのです、それは準備であり、4番目のサイクルに入る時にはそのパーソナリティーは今やLifeから非常に多くを現しているので、様々なエゴの側面を殺し始める準備がいるのです。それが3番目のサイクルで起きることです。

Page3

 　4番目のサイクルではより多くの、またはより少ない転生が必要になるのでしょうか？7つの層と亜層があるだけです。パーソナリティーはそこでは真の5つの感覚を完全に使用して超意識的意識のセルフエピグノシスを現しています。そして努力は三面ピラミッドと四面ピラミッド上に残っているだけです。今や現在のパーソナリティーは2つの助けだけを使い、勿論真の五感は現在のパーソナリティーに沢山の能力を提供しています。

　*現在のパーソナリティーがエゴの様々な側面を除去すると、2つの小さなエゴは今や一つになり、それらはLifeのスパークの中にあります。*

*もはや影はありません。影は影を生み出すスパークのなかに同化、融合したのでしょうか？答えはノーです。それはスパークのなかにあり、同化されず、消えておらず、そこにあります。完全に再形成されたサイコノエティカル体はいまやスパークのなかにあり、その理由はそのパーソナリティーが転生のサイクルのなかに留まることになるからです。もしそうでなければ、サイコノエティカル体は非物資化されたことでしょう。*

　自己実現したパーソナリティーはそこに留まり、かつて影を活性化したLifeのスパークの体を使用することができ、もちろんその体は高次ノエティカル体であり、その体はスーパーサブスタンスの波動です。そして勿論、その体はすでに今でも人間の内側にあり、1番目のサイクルにある人間のなかにさえあるのです。

　さて最初の2つのサイクルのなかにいる現在のパーソナリティーは部屋の中にいて、その部屋は地のエレメントの中にある、と言いました；その部屋はどこにあると思いますか？その部屋は実際に私たちの中にあるのです。

　あなたが自分の現在のパーソナリティーの部屋の中に立っていると言う時、実際その部屋はすでにあなたの内側にあるのです。同じことは私たちが与えた全てのヒポスタシスについても言えます…つまり部屋の中にある四面ピラミッド、三面ピラミッド、五面ピラミッド、そして最終的に一面ピラミッドさえも。

　レッスンで述べてきたように、私たちは私たちの諸体の外側でワークしているのではありません。私たちのワークショップは内側にあり、私たちは自分自身の内側でワークをしているのです。ですから、全ては内側にあるのです。

　それらは特定の場所にあるのでしょうか？それは空間的意味を越えています、なぜなら

私たちの内側というとき、それは私たちの内側のあらゆる所、そして同時にあらゆる所であり、私たちの肉体の外側でさえあるのです。

なぜなら、Lifeにはいかなる境界もないからです…形または空間という境界もありません。ですから、私たちが何を視覚化しようと、あるいは何かのヒポスタシスをもたらして、その結果法則が可能性、能力として提供するものにアプローチしようとしますが、実際にはそれら全ては私たちの内側にあるのです。

　部屋と言いました、そしてこの部屋の中には2つのサイクルがあります。3番目のサイクルについてはどうでしょうか？そこでは現在のパーソナリティーは大きな四面ピラミッドのなかに立っている自分自身を見いだすと言いました。2つのサイクルにいる間の部屋について述べたのと同じように、そのポジションを定義する特別な場所があるのでしょうか？

　そうです、別の守りを与えるもう一つの部屋があります；なぜならレッスンで述べたように地のエレメントのなかにいる間は部屋は現れの境界の意味ではなく、現在のパーソナリティーの“無知”に対して守るという意味があります。それは何であれこのエレメントから来るもの（それは人間の無知が創造したものですが）から現在のパーソナリティーを守るのです。それは非常に低次の波動のエレメンタルが部屋に入ってきて現在のパーソナリティーに影響を与えるのを阻みます；それゆえに私たちはレッスンのなかで、現在のパーソナリティーは決してその守りにひびを入れたり、穴を開けたりするべきではないと述べてきたのです。

　しかし、何であれ現在のパーソナリティーが創造したものはその部屋の中に留まりますが、しかし同時に部屋から出るのです。ですからそれは一方通行です；部屋は内側を外側からの影響から守りますが、しかし何であれ部屋の中にあるものはそれ自身をエレメントの中で放射します。部屋の壁は、部屋の中でそのパーソナリティーが創造したものが地のエレメントの中に入るのを止めません。

　それでは3番目のサイクルに戻ります。そして先ほど、もう一つ守護の部屋があると言いました。なぜなら、パーソナリティーが真の感覚を使用することに向けて努力していますが、それでも多くの危険があります。特にそのパーソナリティーのエゴからの危険です。そのサイクルのなかで生じることの危険の詳細については勿論、将来分析していきます。

　いいですか、現在のパーソナリティーがいわゆる超意識的意識のセルフエピグノシスを現している時でも、大きな四面ピラミッドのなかにはもう一つのレベルがあり、それは実際もう一つのレベルであり、もう一つの部屋なのです。それら防御のための2つのステートに関しては将来話します；そして勿論、前にも話しましたが、4番目のサイクル内での動きの加速化は素晴らしく、非常に速いスピードで進みます。そのパーソナリティーは非常に速く進んでいきます。

Q：2つの小さなエゴについてもう少し話していただけますか？それらは意識のセンターであり、それぞれ別の場所に位置しているのでしょうか？

K：レッスンのなかで述べたように、現在のパーソナリティーが最初のサイクルにいるときには2つの小さなエゴは一つになっています；そしてそれら2つの小さなエゴとは何でしょうか？それは実際、二元性を現すことのできる現在のパーソナリティーです。

　それでは二元性とは何でしょうか？そして二元性はLifeの現象の現れに何を提供するのでしょうか？それは思考というディバイン（神）の贈り物を表現します。二元性なくして私たちは思考、考えを現しません。そしてもし私たちが思考を現さなければ、私たちは自分自身を意識的に表現することはないでしょう。そして自分の存在を理解することすらできないでしょう。

　私たちはどのようにして自分の存在を理解するのでしょうか？私たちは自分の存在を思考の結果として、意味を創造する結果として理解するのです。私たちは意味の世界、対立する二元の世界に生きています；存在する何かを理解するのは、もの凄いスピードでそれをそれ以外の何かと比較することができるからであり、そのようにして私たちは意味を作り上げ、理解するのです。そのようにしてその何かを理解するのです。

　さて初めは、現在のパーソナリティーは一つであるそれら小さなエゴです。しかし何回かの転生の後にそれらは分離します。それらの一つはさらに転生を重ねることによって、それら2つを活性化させる、つまり現在のパーソナリティーを活性化させるスパークに向けて動き始めます。そしてそれが起きると、現在のパーソナリティーに罪の意識が生じます；2つが離れれば離れるほど、現在のパーソナリティーはより多くの罪の意識を現すようになります。

　残ったもう一つのエゴ、それを私たちは2つの小さなエゴのより小さな方と言いますが（それらはLifeのスパークである大きなエゴとは異なります）、それは静止したままとどまり、もう一つのエゴに従うことはしません。しかし、それら2つを分ける距離が大きくなると、その分離はもう一つを引きよせ始めます。2つの小さなエゴの小さい方が大きな方へ引っ張られます。そして勿論、一番小さいエゴは再び何らかの問題を作り出す傾向はありますが、しかし最終的にはそれらのギャップはなくなります。

　2つの小さなエゴには彼等自身の考え方があります、そしてそれ故にこの小さい方のエゴは正しい思考を使用している現在のパーソナリティーを説得しようとします。勿論、非常に多くの転生の後には、大きなエゴの引っ張る力が非常に強くなり、より小さなエゴがそちらの方に動いていき、2つのエゴの間の距離は再び狭まります。それが何回も繰り返されます。

　**しかし、最終的に距離が小さくなると、両方ともLifeのスパークに向けて移動します。そして最終的には非常に近づいて一つになります。そして完全に再形成されたサイコノエティカル体としてLifeのスパークの中に入ります。しかし、先ほどお話ししたように、そのステートにおけるパーソナリティーはまったく二元性を必要としないにもかかわらず、非物質化することはありません。**

　そのような理由で、コミュニケーションのための唯一の手段は同調によります。5つの真の感覚を使ってコミュニケートすることすらありません。

しかし勿論、真の五感は完全に再形成されたサイコノエティカル体と共に留まり、その自己実現した人間が現在のパーソナリティーとして使用します。

そのステートではもはや現在のパーソナリティーではありません；そのステートにいる間は名前はありません。しかしサイコノエティカル体は確かにその名前に“属します”。いまや現在のパーソナリティーの潜在的可能性の大きなサイクルをマスターすることを達成したその名前に属するのです。

　しかし、4番目をマスターした後、5番目が加えられると言いましたが、それは現在のパーソナリティーは現在のパーソナリティーの潜在的可能性の大きなサイクルをマスターしたことを意味します。

　ですから、それが二元性であり、二元性が提供するものです。そしてそれら2つの小さなエゴが現在のパーソナリティーを構成します。

Q：あなたは前に、闘うと反対の結果となるので小さなエゴと闘うべきではないと言いました。でも、どのようにしてそれをコントロールできるのでしょうか？

K：そのとおりです…私たちは何であれその小さなエゴによって指示されないことを行うでしょう。それは私たちの内側の二元性であり、私たちにはそれが必要なのです。それがなければ、パーソナリティーは自分の存在にすら気づかないでしょう。もし二元性が表現されなくなれば、人間は植物のようになるでしょう。まさに植物のように。勿論二元性は必要です。

Q：部屋を視覚化するように言われますが、その部屋は自分の内側にあるのですが、しかしそれを自分の外側に見るのでしょうか？

K：そうです。しかし、何をあなたが視覚化しようとも、それはあなたの内側にあるのです。勿論、あなたが部屋を視覚化しようとし、その部屋のなかにいる自分を見ますが、それをパーソナリティーがどのように理解するかは別問題です。

Q：あなたは病気は私たちの内側のあるオーダーによって悪化するという事実について話したことがあります。何が、オーダーが病気をスタートさせるように仕向けるのでしょうか？

Ｋ：それは法則、私たちの内側にある様々な法則によって病気が始まるのです。様々な法則と言う時、ディバインの慈悲の法則、ディバインの慈愛の法則、原因・結果の法則などですが、それらの法則はどこにあると思いますか？実際、それらは私たちの内側にあるのです、なぜならそれらの法則はLifeのなかにあり、そして私たちの内側にLifeがあるからです。原因・結果の法則という時、それは何かが生じるのを許さない、何らかの痛みを取り除くということ；実際その法則は私たちの内側にあります。

Q:ある病気になるのはどのような理由なのですか？それは私たちがアンバランスをもたらしたがゆえの原因・結果の法則によるものでしょうか？それによって例えばウイルスが活性化したのでしょうか？

Ｋ：そうです、なぜなら私たちが何らかの原因を作り、作った原因の結果を蒙らねばならないからです。特定の病気が表面化するチャンスを与えたのです。私たちが緑の信号を開いたのです。もちろん、それに関係するオーダーはその法則とは戦いません。それはそれと法則と協力します。

Ｑ：それら全ての法則は私たちの内側にあると言う時、それは何かに罪悪感を感じない人々は病気にならないということですか；病気は意識から来ます、潜在意識の深いところで自分が間違ったことをしていると知っています。そして波動の低い人、鈍感な人は何か間違ったことをしていると感じないかもしれません。そのような人は病気にならないのですか？

Ｋ：そこにはある真理があります。なぜなら１番目のサイクルでは、つまりそこでは人間は本能的意識のセルフエピグノシスを現していますが、彼等は自然に関して多くの困難を経験し、肉体に影響をもたらす多くの困難な状況に耐えることができるかもしれません。しかし、勿論同時に彼等の行動は他の多くの法則に反することをたくさんやってきました：お互いを殺し合ったり、お互いを食べたりです。

Ｑ：しかし、他のより高い波動にいる人間が眠れないで死ぬような状況でも生き残ることもできます。

Ｋ：それは真実です、それに向き合いましょう。

Ｑ：もしタバコを吸って、それが悪いと感じない場合には病気にならないのですか？

Page6

Ｋ：次のように説明させてください。喫煙は身体に悪いと人間が知ると、喫煙の影響はより大きくなります。なぜならその人間がエレメンタルを造りだすからです。何かに関して恐れを感じ始めると、それがもっと強くなります。

いずれにしても、それは何にフォーカスするかです。もしあなたが何かにフォーカスするということは、それはあなたがそれについて考え、そしてそれにエネルギーを与えるということです。

Ｋ：夢を覚えているだけでなく、その出来事（＊夢）を作り出す人々がいます。彼等はとても美しい色をみます、美しい色です。そして彼等は次の夜に前日の夢の続きを見ることができるのです。パーソナリティーがそのステートに到達すると、それはこの人生よりももっとリアルになります。

Ｑ：一般に私が夢を覚えている時にはそれはとてもはっきりした夢ですが、それはたまにしか体験しません。

Ｋ：いいですか、そのパーソナリティーは現在のパーソナリティーの２つのレベルを現しているのです。そこには偽善、偽っているということはありません。

Ｑ：そして夢のなかで他の人々をあるがままに見ることができるのですか？

Ｋ：このレベルの波動のなかでは、人々をあるがままに見るということはありません。あなたは人々を自分が認識したように見ます。

Ｑ：より深いレベルでは、人々の真の姿を見ることができるのですか？

Ｋ：いいえ、あなたは真のレベルを表現しますが、そこでより多くの能力を現すわけではありません。現在のパーソナリティーは夢のレベルで、あるいは死という現象を越えても、抱く印象はここにいる時と同じあり、そこで自分のサイコノエティカル界を創造し、現世でいた時に好んでいた人々のヒポスタシス（＊状態）をもたらします。もちろん、現世で抱いていた印象を抱き続けます。あるいはまたその人とはまったく関係のない人を創造して、現実であると理解するかもしれません、実際にはそうではなくても。

Ｋ：あなたは自分の潜在意識に示唆を与えて自分自身を訓練することができます。すると、夢のなかでの体験が状況に対してより大きな理解をもたらすかもしれません。普段の日常では気づかなかった状況に関するより深いレベルを見て、より深い洞察が与えられるかもしれません。

　現在のパーソナリティーが意識的に真の五感を使用するようになると、より深く詳しくみることができます。超意識と比べれば完全に意識的ではないかもしれませんが、しかし３番目のサイクルのなかでより高いレベルにいれば。

Ｑ：私たちは実際に夢のなかでそれらの場所に行くのですか；夢の中で会う人々のところに…

Ｋ：あなたはそれらの場所に行くわけではありません、それらの場所はあなたの内側です。サイコノエティカル界ではあなたは移動しません。それら全ての場所を自分の方に持ってくるのです。それらは実際の場所であり、実際の人々です。

Ｑ：現在のパーソナリティーが意識的に生きるポイントに到達し、夢のなかで出来事を決めるようになり、そのパーソナリティーがそれに完全に気づいていると、そのパーソナリティーはそのポイント、そのレベルに到達してそれらの体験を必要とするのでしょうか？

Ｋ：勿論、それらは必要なのです。なぜなら、それらは何か具体的なものをそのパーソナリティーに与えるからです。５つの真の感覚をマスターするより多くの能力を与えます。３次元におけるその人の努力が何であれ、それが結果をもたらすという証拠です。より具体的になります。それゆえにもし３次元のこの世界で気づきを上げる努力をするなら、真理の探究者は死という現象を経た後も、サイコノエティカル界において気づきを上げる努力を続けることでしょう、と述べたのです。なぜなら、何であれこの３次元の世界で好んで行うことは、サイコノエティカル界に移行しても継続して行うからです。しかし、そこでは真の五感が使われます。

EREVNA PYR32/KE05 NO.10 05/0302